◆即自になって良かったと思う事はありますか？

一言でいうなら、充実感があります。ヘアデザイナーの仕事を二十歳からずっとやっていますが、簡単に辞めたりできる性格ではなかったので、他の仕事を知る機会は全くありませんでした。ですので、今の仕事を続けながらできる「即応予備自衛官」になったことで、自分の世界観を拡げることができた気がします。訓練では、それなりに大変なこともありますが、仲間と一緒に寝泊まりできたり、世代も職業も違う人達と一つの目標に向かって頑張ったりと、いつも新しい刺激を貰えます。そして昔から「人として強くなりたい」という気持ちがあったので、訓練を終えるたびに、その強さに近付けたという実感も得ています。

この「即応予備自衛官」という道は、熊本地震の時に「私も被災地で何か役に立ちたい！と思ったのがスタート地点なので、こういった日々が、いつか人の為になる事をしているかもしれない、と思える日だけでも、そこに誇りと幸せを感じます。これが出来るという今の環境に感謝しています。

予備自衛官等制度は

- ◆ 仕事や学業をしながらでも出来ます！
- ◆ 自衛官未経験者でもＯＫ！
- ◆ あなたの中の「守りたい」という志を活かせます！
- ◆ 予備自衛官としての手当も出ます！

詳しくは
自衛隊大分地方協力本部の
お近くの地域事務所まで！

SDF
Ready Reserve

WHY ARE YOU HERE?

◆以前一「予備自衛官補」（予備自補）の時にも掲載させていただいた事がありますが、そこから如何にして「即応予備自衛官」（即自）まで目指そうと思ったのかを教えてください。

予備自補をやっていた時に制度が変わって、それまでは元自衛官しかなれなかった即応予備自衛官に一般公募の予備自補からでもなれるようになったんです。即自の方が、より実践的な訓練を受けられると聞いていましたし、体育会系的な気質もあって、どうせやるなら「ハードな訓練の方が良かったので、その話を聞いた時から即自になろうと思っていました。現在は福岡駐屯地の第19普通科連隊第1中隊に所属していますが、私が配属となった当時、女性としては初めての隊員だったそうです。今では同僚にもいますし、女性の隊員も増えていますよ。

◆現在、即自の部隊では、どのような訓練を行っていますか？

私は、「迫撃砲小隊」に所属していますので、迫撃砲の訓練をメインにやっています。師団競技会では2位になった事もあるんです。他にも、体力検定や射撃検定もきめ、普通科隊員が行っている訓練をやっています。

◆普段の仕事の他に、即自の訓練に行くわけですが、スケジュール的に無理なくこなせていますか？

即自になって、会社に「即応予備自衛官雇用企業給付金」が出るようになりましたので、訓練に行くのも「公休」扱いにして貰えるようになりました。もともと年賀当初に訓練日程が出ていて、そこから行けそうな時期を選んでスケジュールを組めますので、そこまで大変ではありません。部隊の方でも本業を優先させてくれますし、気軽に相談にも乗ってくれていたりします。以前にポストを潰して救助を行うという珍しい訓練があって、そこにどうしても行きたかったので、お客様に予約の変更をお願いしたところ「あ、訓練でしょ」と了承して貰えました。今では、そんな感じでお客様にもご理解を頂けるようになっています。会社や部隊、お客様まで含めてフォローしていただけますので、無理せずに両立できています。

民間から予備自衛官へ

平井 しのぶさん（上）
大分市在住（熊本出身）

平成30年の地本だより掲載時は「予備自衛官補」であった。

Hair Designer

SHINOBU HIRAI
平井 しのぶ

即応予備陸士長
第19普通科連隊 第1中隊

COIFFIRST
Floor Director

※記載している情報は全て取材時のものです。

僕らがここに立つ理由

普段はそれぞれの職業や学業に従事し、大規模な災害等が発生した場合には出動する自衛官としての顔も持つ。言わば社会人と自衛官の**二刀流**。それが**「即応予備自衛官」**である。

2011年に発災した東日本大震災では、自衛隊発足以来初となる災害招集命令が即応予備自衛官に発令されており、記憶に新しい2024年の能登半島地震にも即応予備自衛官は出動している。その多くは自衛隊出身の元隊員であるが、自衛隊未経験の者でも「予備自衛官補」から入って「予備自衛官」「即応予備自衛官」となり、自衛官として災害派遣や国際的な訓練に参加できる道も開かれている。しかし自衛官として活動するためには、やはりそこに知識や技能が必要とされ、それらを練成するために「即応予備自衛官」は年30日の訓練を必要とする。「災害時に救援活動に参加して、困っている人の役に立ちたい」。そういった志を持っている人も少なくはないであろうが、実際に仕事をしながら30日間の訓練をこなすというのは、そう容易ではない話であろう。実際に「即応予備自衛官」として活動している隊員たちは、どのようにして、そのハードルを越えているのか。自衛隊未経験の「予備自衛官補」から入り、現在では「即応予備自衛官」として活動している隊員に聞いてみた。

即応予備自衛官

ヘアデザイナー

平井しのぶの場合

Oita PCO Letter
No.28 Feb.2025